



喜多見（喜多見周辺）の農を再生する堆肥への願い

微生物【バクテリア】の繁殖力を考える堆肥作り

健康な作物を作る、昔の農家の野菜作りの基本。そして土壌から生まれる作物を土壌に戻す努力、これを重ねて行く事により土壌が肥える、沢山の微生物が増えてくる。また落葉や残菜などを微生物（バクテリア）が繁殖しやすい環境を作るには細かく裁断をすることは重要です。微生物の増殖・醗酵を進めることが第一条件です。

喜多見の作物の本来の味が徐々に回復し、野菜の美味しいコクのある味が生まれる。今の畑は化学肥料で汚染されて野菜本来の味が損なわれている。時間を掛けて本来の味を引き出す努力が必要です。農家の智慧を決集して本来の味（有機たっぷり野菜）で、市民に評価される地元野菜を作りましょう。自ずとスーパーに並ぶ野菜との差が生まれます。

皆さんのお考えは……

- ・地元の有機たっぷりの野菜の魅力を一般市民に認めて貰うには農作業には力を注ぎ地道な努力が必要である。…市民に認めて貰うのが大切です。
- ・テレビで有名な料理人が畑で生の野菜を口に入れた時、野菜の旨味を確認、その場で取引できる安心を認め、採用するのを見る事がある。喜多見農家の目標でもある。
- ・昭和20～年代は官士・農家・工業・商業と、国は農家を一番大事にし、国の繁栄の担い手とされていました。…化学肥料がない時代に農家は知恵を絞り農作業に精を出し健康な野菜を作り、社会に貢献をしてきました。時代の変化で現在では商業・工業が優先、農家は冷遇の道を歩むようになりました。時代の変化は恐ろしい事です。

これからの時代、これまでの安ければよい時代から…農作物の輸入商品の見直し等・農業が見直される時代となって来ると確信します。色々な輸入等でも次第に市民は本来の味に気が付いた様です。より健康な野菜を求める市民が多くなり、地元農産物に興味を持つ時代が近いうちに来ると思います。

【健康な野菜】NPO法人のせたがや喜多見農とみどりは、市民が認知する健康な野菜を作ること支援をしたい・・・化学肥料で汚染された土壌から、バクテリア（微生物）を繁殖させ健康な野菜を作れる農地へ、そして末永く維持管理できるように、現農家・一般市民・協力団体、そして農業公園に対する理解を求め、協力し合っていきたいと思います。この地の農業公園であれば、単に綺麗な公園ではなく”市民に愛される農業公園”、これからの時代に末長く愛される農業公園を創り上げていくことを切に願う次第です。

※ 地域の農のための努力は惜しみません。微生物【バクテリア】は人間の目で見えるものではなく難しいテーマですが、農産物だけでなく身の回りで起きている様々なものに良い影響を与えていることが一般にも理解され、活用され始めています。結果がすぐ出るものではなく、理解されるまでには時間が掛かるが辛抱が必要。微力ながら応援は惜しみません。【おいしい野菜作り】農地の維持には微生物は欠かせないです。

農業公園の長期計画は、喜多見の農家の智慧・畑の在り方の考え等も考慮する先々の計画を願います。農業公園の在り方として過去の歴史にも触れる栽培、農家の人は農作業にこんなに知恵を絞り農産物を市民に供給していたのかと理解につながる公園運営もあります。長期計画を楽しみにしております。

地元の堆肥で作る健康な有機野菜の魅力、資源の循環を市民に認識されるまでには時間が掛かると思いますが、頑張ろう！・・・

※医療の発達もありますが、ここ数年いろいろな新しいタイプの病原菌が発見されています、そして新薬の対応に追われ薬不足も取りただされています。この事態は現代人が科学肥料で作られた野菜・作物等身体に摂取しているからに外なりません。40～50年前には今のような流行りの病気はない時代でした。国民はもっと健康でした。食事も贅沢になっていますが身体は大きいが大切な免疫力が無くなりました。気力だけの生活で病気に勝てるわけがない、私の個人的な考えですが、終戦直後頃の農家の野菜作りに倣い、現在の栽培方の見直しを検討すべき時代に来ていると思います。

＜現代の農の見直し＞

衰退する農地、負担がかつていた農作業の見直し
次の点があります

1. 健康な野菜作りとは手を抜かない農作業の在り方
2. 昔の人の農作業の再考と見直し
3. 現在の農産物の供給のあり方、化学肥料に頼り過ぎ
4. 出荷の際の基準の見直し、化学肥料での作物の基準の見直し
5. “特農家”の野菜作りの勉強、現在と昔の人の農作業を融合する技術工程の開発

この地（世田谷）では建物を造る際に建築基準法施行令で、一部は風地風致地区に規制で緑を大切にする施策、行政が木々・植栽を奨励し要請してきた時期がありました。現在ではその木が大木になり落葉樹は、地域では落ち葉の処理に苦慮している地域もあります。

※ 昔の農家の智慧の例、落ち葉を【御陵林】言われていた今の砧中学・明正小学校一帯は、秋には毎日のように落ち葉履きに行き、家に持ち帰り畑の肥やしとして【堆肥作り】をさせられました（今でも思いだします）。

【堆肥作り】とは

大地から大切な恵みを貰い、残り物・残飯・端切れ等不要な植物性残渣、大地から生まれた残存物は大地に返す、自然な農法の在り方を実現しようではありませんか、・・・

リサイクルで【堆肥作り】を実現する事により、街の中の各所での秋の落ち葉の処理等の課題が解決できるのではないかな・・・

※ 地産地消を目標に向かい喜多見の農家は社会に貢献できる、農地維持にも力を入れる、スーパーの野菜と違った健康野菜を創り上げて、農家のイメージを一般市民に認めて貰うチャンス

農業公園の堆肥作成の規模が十分に大きければ、各所の落葉の課題を解決するチャンスであり、農業公園は地域を考えた【堆肥作り】を創り上げて行くことで地域全体に貢献できる糸口にもなります。

農地を末永く活用し末永く維持して行く将来像を私なりに思いついたことを記しました。参考にしてもらえればと思います。

JA東京中央 喜多見上部支部
せたがや喜多見・農とみどり（認証NPO法人）

支部長
理事

原田 欣明 記

私の一族先祖は喜多見に移り住み300年、祖父（勘七）、父（忠一）のもとで高校まで農業に従事しました。喜多見を愛する一人として喜多見の農の繁栄を願い、農業を通じての知識と経験からこれからの農の継続に希望を託し、ご提案致します。

令和6年3月吉日

喜多見農家の智慧を結集して・農地の維持に希望を持とうではありませんか・・・

てづくり市場との出会い 5

「主役は地元野菜、そして出展者が野菜販売を盛り上げる」仕組みづくり

こんにちは。今回は、フードパントリーのこどもたちへ野菜を届けた2020年の夏のことを書きました。その頃から、私は市場の運営の一員として、新規の出展者の方を迎えるにあたり、市場の目的や仕組みについてお伝えする立場となり、その文章を作り始めます。

手づくり市場は、慶元寺の駐車場をお借りして開催しています。お寺は地域のためのものでもあるという考えから、慶元寺のご住職は、ボランティアで地域活動をする私たちに、駐車場を無償で貸してくださっています。

市場には無料のお茶コーナーがあり、お茶や野菜の試食をふるまうことで地域の方の交流を図っています。

そのための燃料や橋や皿、またテントやバーベキューセットなどの備品もあり、市場の運営には経費が掛かっています。

市場の運営メンバーの中には、運営専任の方、音楽演奏と兼任の方、そして、私のように出展者と兼任の方もいます。市場の運営は、これらのメンバーのボランティアで行われています。

出展者は各々の商品を売って、売り上げを得ています。当時、市場に出展するための費用はいただけていませんでした。

一般的に、出展者がどこかのマルシェに出展する際には出展料が必要です。当時、この市場ではそれが無かったのですが、このような状況のなか、私はリーダーの田島さんと相談しながら、出展料について検討ははじめました。



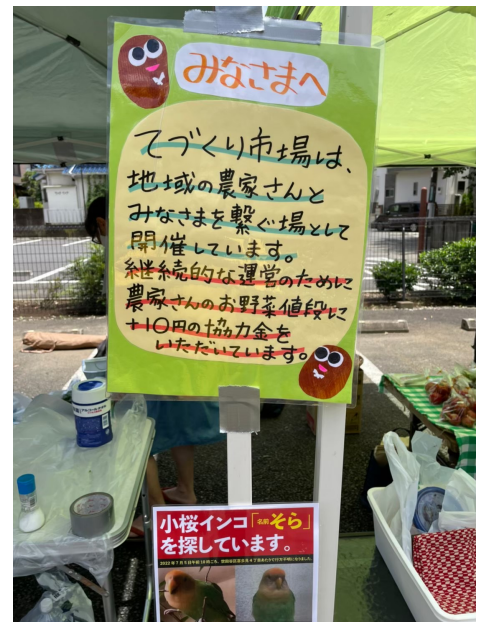
市場において、人と人との交流の場として重要な役割を果たしているお茶コーナー（無料）。試食に関わる費用は、出展者からの運営協力金から拠出しています。

てづくり市場の目的は、地元野菜を地域の方々に知っていただくこと、喜多見の農家と農地が存続すること、そして、地元野菜を通じて地域の方々の交流の場となることです。市場の主役は地元野菜販売で、それを盛り上げるためにたくさんの出展がある、という構図がよいように思い、「出展者に市場の主旨を説明した上で、任意で運営協力金をいただく」というスタイルを提案しました。お寺をお借りしての運営なので、市場の運営で利益が出てしまうことは望ましくないとの考えから、概ね経費分に相当するように、協力金の金額を設計してみました。ありがたいことに今まで、「出展料が安いからここで大儲けしよう」というような考えの方は無く、皆さん市場の主旨をご理解の上、協力金に賛同してくださっています。

同時期に、地元野菜の値段についても議論がありました。野菜の値段を上げて売った時には、直売場の値段より高いという声もお客さまからはありました。しかし、日頃直売場になじんでいない地域の方が、市場ではいくつもの農家さんの野菜を一気に見られることには価値があるという考えから、今では、「野菜一つあたり、市場運営費として10円をいただいています」、という看板を掲げて、地元野菜を販売しています。

このように、てづくり市場の運営は固定したものではありません。今も課題がでてくるたびに、大小さまざまな変更をしながら、理想的な運営を模索しています。運営メンバーのボランティアで行うには相当なボリュームがある作業ですが、リーダーの田島さんを先頭に、運営メンバーで協力し合っておこなっています。

次回は、そろそろ現在に時間を進め、市場とのかかわりを通じて今私が思っていることを書いてみようと思います。



地元野菜販売ブースの掲示。直売場価格に10円をプラスし、市場の運営費用に充てていることをお客様にお伝えしています。このような形で、お客さまにも市場の運営に協力いただいています。

(記：小堤明子 2024年3月29日)

わたしが子供の頃の喜多見

わたしが子供の頃の喜多見

- ・里山の美しさ
- ・農が養う自然の美しさ
- ・原風景の喜多見

「農は原点」だと思う、と以前に書いたと思います。

「原風景」という言葉があります。

この言葉の中にも原、原点の原の共通性もある。

たまに耳にする原風景とは、何を指す言葉なのかを調べると、次のようにありました。

「原風景（げんふうけい）は、人の心の奥にある原初の風景。懐かしさの感情を伴うことが多い。また実在する風景であるよりは、心象風景である場合もある。個人のものの考え方や感じ方に大きな影響を及ぼすことがある。」

だれにも子ども時代があり、原風景となる情景があるのだと思います。

私はこの地に生まれて、この地は原風景を、私に与えてくれていた。

つまり、私はここで作られた（育てられた）と切に感じ入ります。

既に70歳に向かう人生の最終局面、感動した景色や情景の記憶は、今も健在。

思い出せる美しい景色の数々は幼少の頃に見た景色です。

あの頃の自然豊かな喜多見の姿は、今はありません。

時代の移り変わりです、仕方ありません。

今頃になって、幼少の頃の私は、尊い価値に包まれていたのだと、実感するのです。

沢山の美しい情景の記憶、その中の3つだけ、言葉での説明を試みます。

・近所の農家のアオキの茂み

ヒトは皆幼少の頃は何もかもが新鮮に映り、真剣に向き合う日常を送っています。

はじめは家庭で、次第に家の近所と外側の世界に触れるようになります。

忘れることも多いですがその頃に頭の中に記録した映像です。

はじめての外の様子の記憶があります。庭、広場、道、農家の垣根、農家の庭・・と。祖母の手づくり低い竹の柵が庭の花壇を囲んでいました。

祖母はいつも庭で仕事、お花や木の世話でいつも植栽の移し替えをしていました。「庭しごと」あれは見栄えを考えての手直しで、忙しい現代人はしなくなっている。お花の移し替えは、仕事でなく趣味の庭遊びかもしれないけど、私には大切な家の仕事でした。

それから近所の子どもと遊ぶ様になります。隣接の広場が近所の子どもの遊び場です。近所の農家の廣田さんで、農家さんはのら仕事ができる様に何も無い広い庭があります。

ひろい敷地の角にの納屋の横に勝手に生えて来たのであろう草木の塊がありました。その塊をなす植物の葉は厚く大きく目立。見慣れた草木とは違うので驚きました。人の背丈ぐらいの高さより少し高い珍しいやつ、20畳ぐらい広さの茂みとなって生い茂っていた。

あれがアオキ。アオキは葉が大きく目立つし、赤い実は大豆よりちょっと大きく、俵型です。あの赤い実が目立つとても印象的です。実を割って中の白い果肉は、たべても良さそうでした。

食べられるか？その時にきっと年長の子どもに訊ねたと思う。たべてみたかった。あの頃の子どもは、遊びの中で、いろんなことヒトの生活ルールに気が付くのです。

・近所の子と遊ぶのは楽しい。・大人に怒られること。怒られないこと。

アオキの茂みは中に入って遊んでも怒られない、ジャングルの様な楽しい遊び場。美しいという言葉で当時アオキを感じていたかは不明、ただ印象に残り潜在意識にも。あの逞しく群生をなしているアオキの勢いは、他の草木を押しよける勢いの現れで美しい。

美しいものがある里山、生き物に限らず、雲や川の流れとかも、勢いは美しい。

・慶元寺下の田圃と畦道

近所のこども達と遊ぶ毎日。幼稚園にはまだいっていなかった頃。

外遊びをはじめた頃の仲間は皆年上で、私は子ども4、5人に達に交じっている。ある時、慶元寺の田圃の方に行こうということになった、はっきりとした記憶はない。たぶん廣田さんの親が田んぼにたのかもしれない。或いは野菜を小川で洗う。行ったこと無く一瞬怖いと思って迷った雰囲気の記憶、仲間に付いて行く。お寺の正門を過ぎると坂を下るような道は、今もある道で、当時は舗装されていなかった。

「慶元寺した」の呼び名は、あのあたりの低地の地域を指す言葉。

一面が田んぼで、多摩川の方まで広がっている。
多摩川の前には浄水場があるから、直接多摩川にはならないけど。
その景色をみて情景のすごさにびっくりした。いちめんの田んぼを見た。
ヒトはその一生の中で美しいと感じる景色を何度かみて驚く、でよろしいかと思う。
何を美しいと観るかはいろいろで、夕焼けや、遠くの山、夏の雲と青空もある。
ところでその美しいと感じる点の”疑問と不安”があります。
その感動はわたしのこころの中の出来事、他のヒトは同じ様に感じるのか？の疑問です。
自分の観察では、私感じる感覚は他のヒトでも同じように美しいと感じるようです。
その慶元寺したの風景はこの人生でトップレベルに美しい。
それを実際にみることができた私は、観れていない私とは違う。
この現実の認識が、この地の農の継続のための活動のモチベーションになっている。
無くなっていくなんとかしないと・・・分らないけど、少しは残せる・・・。
本来の喜多見を見てしまっている以上、何かをしないといけない、こう考えます。
眼下にひろがる田んぼの風景、田んぼの方から眺めるお寺の森の姿、その脇を大きく
曲がって下りて来る道、道は人が作ったもので人の生活の証し。田んぼもヒトの暮らし、
いいものだ。
自分の足元にはさまざまな草と花、いろんな生き物が動き遊ぶ畦道。空には鳥と虫達
の群れが。

・慶元寺下の川のシモのカーブの畦道のクローバー

「慶元寺下の川」は農業用水ですけれど、小川を呼んでもよいのだろか、小川と呼んで
いました。
二本の流れが並んで 1 m ぐらい離れてずっと田んぼの中を続くのですね。イイ感じにうねっ
ています。
黄色い菖蒲がさくところもありました。タニシもありました。小鮒釣りもしました。
子どもの私には、小川はとっても重要な遊び場、毎日、ザリガニ、どじょう、カエルを取り
にいった。
わたしは喜多見に育ててもらったし、あの小川に育ててもらった。
なんであんなにもザリガニを取るのが楽しいのか、身体の中にしみ込んでいる本能という
説明。
子どもにはやんちゃにも近いタイプがあり、さらに野生児の分類もあり、わたしは野生児
になってしまった。
クローバーは白つめ草、公園には芝生が広がるのがクローバーが広がることもある。
クローバーに寝転んで休むのも、とっても気持ちがいい。
なんでクローバーを美しいと感じるのか？例の生命力かもしれない。豊かさを感じる。

畔道は仕切りのために道で、いろんな幅が。

小川と田んぼの仕切る畔は太い、そして田んぼから上の段の陣屋の畑地帯に掛け上げる畔はさらに広がっていて、なぜかここだけ不思議に広く特別に美しく、気持ちよかった。

場所を説明すると慶元寺の正門の前の通りを慶元寺下の右手にはいかず、真っすぐにいくと、永井ミヨさんの畑に沿って左折れる箇所から、右下に降りるあの場所です。

もう今は家だらけですが、あの場所を好きになった頃は、あの辺には家はありませんでした。

田んぼや原野（げんや）でした（砂利採石場のあとが原野になったのかもしれない）。

原風景になっているクローバーの畦道はとても美しい。

まとめ

この私の実感を、言葉にして他の方にお伝えすることは、むずかしいことだと思う。

頭に中に記録されている映像、これを取り出そうして言葉をつかってみる、

伝えたつもりになったに過ぎない、到底できません。絵を描くしかないと思います。

ただ概ね何を言わんとしているかは、分かっていたくれるのかもしれない。

みなさんの頭の中の記憶で、みなさんの得てきた映像記録をかき集めた風景として。

里山とは、わたしが見聞きした理解では、“ヒトの暮らしがあって生まれる調和した自然”といったことだと思う。ヒト＝人工ではなく、ヒトは自然の一部（人も自然の産物）なのです。

ヒトは自然を壊すし、また自然を作りもする。かつてヒトの農は里山自然を創っていたのに。

ヒトがいて生まれる自然は見るだけでも最高！夕焼けの畝だって、とってもいい。

あの小川の脇に広く盛り上がるクローバーの畔丘は、芸術の言葉だろう。

ありがとう、お百姓さん、あんな最高傑作を生みだしてくれて。

（記：たじまぶんいち 2024年3月26日）

細長あきちという新しい畑作りのはじめ

かつての話。
成城3-19あたりには鬱蒼とした細長いアキチ、「赤道」と呼ばれた農道がありました。
周りの畑がしだいに倉庫やマンション、建設会社の土置き場になり、並走している津久井道は世田谷通りになり、人々は赤道を忘れ、役目を終えた赤道は雑草に覆われて行きました。

そして去年の正月あたりからこの鬱蒼とした「赤道」を、草を刈り、木を切り、瓦礫を掘り起こして、畑にしてみようという珍しい人たちが集まってきました。
それが、実は私たち「せたがや喜多見農とみどり」の面々です。



書き手のわたしは、いま、そのまとめ役として動き回っている「どんちゃん」です。
ちょっと責任は重いかもしれませんが、楽しくチャレンジしています。

これは、その新しい動きの現時点でのその中間報告です。

1年目は入り口から真ん中ぐらいの「赤道」がすぼまる場所まで草刈りと瓦礫拾いをしてブロックの北側を1番～4番、花壇の5ヶ所に分けて野菜と花を作ることになりました。

1番から4番の畑で里芋、ミニトマト、カボチャ、シシトウ、こだまスイカ、トウモロコシ、カボチャ、パッションフルーツ等を育て

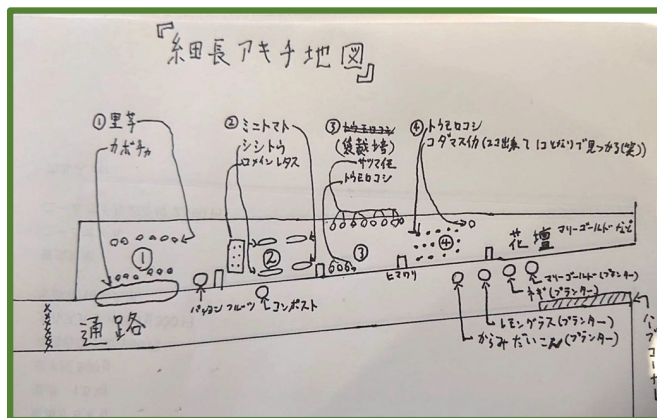
通路でフェルトプランターや袋栽培でジャガイモ、サツマイモ、レモングラス、ハネギ等を育て、日陰になる入り口東側でバジル、大葉、ハッカ等のハーブを育てました。

夏野菜を終えて失敗した野菜もありましたが堆肥による土作り等更に手を加えれば旨い野菜を作れる手応えがありました。

このように、成城3-19の「赤道」は、私たちの小さな努力によって、「細長アキチ」として生まれ変わり、いまでも、日々少しずつ変わってきています。

この取り組みは、小さなものですが、世田谷での小さな新しいチャレンジ。NPOを中心にした動きとして、都市部における緑地の保全と、地域住民の交流促進という点で、大きな意義を持つと言えるでしょう。

今後も、この「細長アキチ」が、人々に愛される場所として、末永く続いていくことを願い、じっくりと頑張っていきたいと思います。



(どんちゃん 2024.03.26)

農とみどりオフィシャルサイトにぜひおいでください！

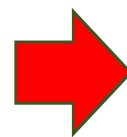
「農とみどり」のオフィシャルサイトができました。

URLは以下です。

<https://www.nou-midori.org/>

ぜひ、ごらんください。

スマホからは、右のQRコードから
簡単にアクセスできます。



農とみどり 4月予定

4 月予定

2024 4月						
SUN	MON	TUES	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6 9時半 小澤農園 10時 細長アキチ
7	8 15時 野の花 マルシェ	9	10	11	12	13 10時 細長アキチ
14 10時 そら豆マル シェ	15	16	17	18	19	20 9時半 小澤農園 10時 細長アキチ
21 9時半 てづくり市場	22	23	24	25	26	27 10時 細長アキチ
28	29	30	1	2	3	4 9時半 小澤農園 10時 細長アキチ

小澤農園の手伝い体験4月～

畑 お手伝い(体験) 2024.04～06

小澤農園・NPO農とみどり 区画

畑(自然)に親しむ 体験の場

生育の観察 大切な体験

参加者ノート
記載ください

ケガと
弁当は
自分持ち

未経験 大歓迎
お気軽に
ご参加下さい

見学だけ参加
大歓迎です

※氷川神社の梅林に繋がる 自転車
が通れる 細道を すると、そこが、小澤
農園です。

小澤さんの
ご理解に感謝

農がくだる
自然と大地に
まみれる体験
ができます！

収穫する頃
お知らせします
生育の様子も
楽しみです

運用予定&規則

- ・4-6月 第1と第3 土曜9時半～12時
- ・平日10時～15時 自由参加とします
- ・事前か事後の連絡下さい記録します
- ・参加者は小澤農園さんにご挨拶は必須
「奥の農とみどり区画の確認しました〜とか」
- ・畑観察のみOK (観察用の椅子を用意)

(NPO) 農とみどり
(街の畑の支援チーム)
事務局担当 田島 (喜多見4丁目)
090-6159-2693

成城3丁目細長アキチ
もあります

質問など田島まで、お知らせください。

4/21

てづくり市場あります。強風に注意！

2024
4/21(日)

やります！
第3日曜日です

9:30～12:00
慶元寺駐車場

てづくり市場

マイバック
ご持参くださいね!!
ゴミ減らす

地元で採れたお野菜を販売します

宇奈根・喜多見・狛江 辺りの仲間

百水神社
ゆっくりしていいね
お茶 できます

地元の野菜を楽しみ、
農家さんに感謝する

いろんなお店 歓迎します

採りたて野菜 の他に
てづくりアリン、小物、リサイクル品、
陸前高田の産物 10分間整体
...など出店は状況で変わります

お気軽に立ち寄りください
幼稚園のとなり クルマでも大丈夫

私たちは、この地の畑を大切に考え、農の継続を願い、保育園行事や慶元寺での
野菜販売(市民の市場)/農に係る映画上映会/畑の手伝い などを行っています

いっしょに活動
NPO せたがや
喜多見農とみどり

主催 テツクリはたけの会
事務局(出竹・田島) : 090-6159-2693

のの花マルシェ 4/08 (第2月曜)

主なお客様は下校中の小学生
関屋さんが運営しています



ご不明な点や、ご意見ご希望はなんなりと、このメールアドレスにお願いします。

Copyright © 2023 せたがや喜多見農とみどり, All rights reserved.

メールアドレス: : info@nou-midori.org

喜多見4-9-7 世田谷区, 東京都 157-0057